

## 翻訳にあたってのヒント

### その 76

#### Trados を使った翻訳での注意点

最近、Trados を使用した翻訳で重大なエラーが発生したので、今回は Trados ユーザを対象にした使用上の注意点をお伝えすることにする。

Trados を使って翻訳するファイルは、Word 形式や RTF 形式で客先から支給されることが多いが（それ以外のファイル形式の場合には、TagEditor を使って処理するものが大半だが・・・）、Word 形式ファイルのフィールドコードでリンクがはられている箇所があるファイルを扱う場合には、リンク部分を Workbench にかけて（つまり、「開く Open」や「開いて取得 Open/Get」アイコンをクリックするだけで）、一発でリンクが壊れることが判明している。これからして言うまでもないことだが、こうした箇所は「後続の完全一致を翻訳 Translate to Fuzzy」にかけて、Workbench に自動的にかかり同様に壊れるので、この機能は絶対に使わないことだ。こうしたファイルを翻訳する場合には、「開く Open」や「開いて取得 Open/Get」アイコンを絶対にクリックせず、ベタ打ちで上書き処理し、リンク箇所をカット&ペーストするに限る。そして、翻訳にとりかかる準備として、Word の「ツール→オプション→表示タブ→フィールドの網かけ表示」のドロップダウンボックスで「表示する」を指定して、リンク箇所を Word の画面上でグレー表示させるようにしておくことが肝要だ。

さらに、変更履歴の表示がオンのときは、Workbench を使えないということも分かっている。この場合は、Word の「ツール」->「変更履歴の記録」をクリックして表示されるボタン（左上にピカリマーク）を薄い青色から灰色に変えることで、Word で Trados を使えるようになる。

この翻訳にとりかかる前に、上記の注意事項が客先から指定されていなかったもので、翻訳にとりかかってからまる一日過ぎた時点で、不具合を報告したのだが、後の祭りであった。おかげで、約半日を費やしてオリジナルファイルを使ってはじめてやり直すことになったのである（Trados ユーザなら当たり前のことだが、原文ファイル、原文・訳文混在ファイルは別々の名前をつけて保存しておくこと）。今までは、こうしたいじくりのない箇所は「現在の固定要素をコピー Get Current Placeable」で原文から訳文箇所にコピーしてやりくりしていたのだが、今回は未曾有のケースであった。さまざまな修復を試みたが、前述した通り一発で壊れるので、徒労に終わったことは言うまでもない。

さらに、Trados はマルチリンガルをうたってはいるが、フォルダ名やファイル名に 2 バイト文字（つまり、日本語の漢字、かたかな、ひらがな、全角文字などの半角英数以外の文字）を使うと、認識されなくなるという我々日本人ユーザにとって致命的な問題も抱えている。これから Trados を使う方は、くれぐれも注意していただきたい点である。

話変わって、最近、客先から Déjà Vu を使った翻訳を打診され、その体験版を使ってみて驚いた。Trados と操作方法は非常に異なるが、非常に使いやすかったからである。ただし、対応している **Interface Language** が、英語、オランダ語、フランス語、ドイツ語、スペイン語のみであるため日本語でメニューやヘルプを出すことは不可能という難点があることから、この中のいずれかの言語で操作方法や指示を理解できないと取り扱えないということがあるが……受注に至れば、是非導入候補に入りたいと考えている翻訳メモリーである（そうはいいつつも、この **Interface Language** で日本語に対応しない限り日本での普及はむずかしく、客先が限定されると考えられる……）。

これにて第 76 回目終わり。